

市政に関する一般質問

福祉行政

子ども医療費助成事業の更なる拡充を



陵志会 宍倉敬文

問 市長が選挙公約に基づき、小学3年生までを対象とした通院・調剤に係る子ども医療費助成事業を中学3年生まで拡充したことは、少子化が進展する中、子育てしやすい環境を整えるという観点から、素晴らしい施策であったと考える。県内他団体の状況を伺うとともに東金市の子育て支援の更なる一手として、子ども医療費助成事業の助成対象を高校3年生まで拡充できないか伺う。

答 県内他団体の平成26年

8月1日現在の子ども医療費助成事業の状況は、山武市、いすみ市、二宮町の3団体が助成対象を高校3年生までとし、横芝光町が高校2年生までを助成対象としている。また、中学3年生までを助成対象として

いるのは、本市を含めて37団体となっている。助成対象を高校3年生まで拡充することについては、高校に通っていない方との公平性の検討など、様々な議論が必要であることから、県内他団体の動向を注視していきたいと考えている。

建設行政

東金中央公園の改修に関する検討委員会について



蒼政会 坂本賀一

問 6月定例会にて東金中央公園改修に関する、市当局の方針を伺った。それは東金中央公園改修に関する検討委員会を設置するものであった。現在の検討委員会の工程表について伺う。

答 検討委員会の組織立ち上げは、これまでそれぞれ

の用途や役割に合わせて整備してきたが、時代の変化と共に「安全安心なまちづくり」の観点が重要視されるようになり、防犯や災害対策などのニーズも高まり、目的の優先順位や考

え方が変わってきている。そのため、色々な分野から広く意見を聴き、市民が求めるような公園整備を目指す（仮称）都市公園整備検討委員会」設置の準備を進めている。委員会では、市内全体の公園及び東金中央公園について、9月末を目

途に、検討委員会設置要領の作成、委員の選任を行い、委員会を設置する予定である。委員は、区長会など住民を代表する者、都市計画審議会委員や大学教授などの学識経験者等から選任する予定である。

一般行政

東京オリンピック キャンプ地の誘致について



蒼政会 前嶋里奈

問 2020年東京オリンピックに向けて東金市は、県と連携しながらキャンプ地誘致等の取り組みを進めるとの答弁があった。どのような施設が利用可能か伺う。又、キャンプ誘致は、東金市のピーアール以外に、子ども達の国際理解教育の推進や姉妹都市交流など、身近な国際交流活動の活性化のメリットもあると思うが、いかがか。

答 本市の受け入れ体制の整備状況について県に利用可能な練習施設として、東金アリーナ及び城西国際大学を報告している。

また、キャンプ誘致は子ども達が外国人と触れ合うまたとない機会であり、東金市がどこかの国のキャンプ地となった場合は、その国の挨拶やおもてなしの言葉や文化学習等、学校と連携した取り組みを行い、また、姉妹都市や姉妹校の締結も考えてまいりたい。

教育行政

2020年東京オリンピックに向けて



東金みらい 佐久間治行

問 東金市から一人でも多く2020年東京オリンピック選手が輩出されれば良いと思う。子どもたちには無限の可能性があり、夢を見て希望が持てる指導をしてほしい。青少年育成について、夢を育むための指導をどのように考えているか伺う。

そのため、過去にオリンピックで活躍した選手のエンピッドや小さい頃の取り組みなどを、随時、学級指導や道徳の時間の中で取り上げたり、「ちば夢チャレンジかなえ隊」等の県施策に積極的に応募するなど、児童生徒の運動への関心を高めたい。

答 大きな可能性を持つ子どもたちに、夢を育むための指導・支援は大切なことと考える。6年後の東京オリンピックに本市からも選手を輩出できるように、小学校では正課体育を充実さ

教育行政

総合交通の中での通園・通学バス無料化について



東嶺会 小倉治夫

問 通園・通学バスを利用している園児・児童・生徒は、バス代を負担しているのと同じ。利用者負担をなしとし、無料化はどうか。早急に無料化を検討できないものか伺う。

答 通園・通学バスは、源幼稚園・源小学校、公平幼稚園、北中学校で運行しており、今年度の利用者負担月額は、源幼稚園・源小学校が3,500円、公平幼稚園が3,600円、北中学校が2,500円である。市の補助金と利用者負担金を主な収入として

地区運営委員会により運営されており、利用者負担金の額はそれぞれ地区運営委員会において設定されている。通園・通学バスが園児・児童及び生徒の遠距離通学及び安全安心な通園・通学のための重要な交通手段であること認識している。その一方で、利用者の減少に伴う課題等も顕在していることから、これらを踏まえ、今後、庁内での協議を経た上で地区運営委員会と連携・協議を行い、利用者負担金の無料化について検討してまいりたい。

建設行政

空き家の適正管理に向けた取り組みは



東金みらい 清宮利男

問 管理されずに放置された空き家は、治安や衛生などの面で近隣住民に悪影響を与えかねない。2011年以降、柏市・流山市・松戸市などが管理を所有者等に求める条例を制定し、現在県内では10市町で同様の条例が施行済みである。また、空き家を活用して居住者を呼び込もうと空き家の登録制度「空き家バンク」を始める自治体も増えている。本市では、どのような空き家対策を行っているのか。

答 本市では、平成13年施行

の「東金市清潔で美しいまちづくりの推進に関する条例」に基づき、「空き家が著しく不適正な管理状態にあり、かつ、市民生活に重大な障害が生じるおそれがある」と認められる場合は、管理者に対し適正な管理を指導している。しかし、住宅の取り壊しに伴う固定資産税の特例措置解除等の要因により、容易に問題の解決に結びついていないのが現状である。個人の財産権等もあり大変難しい問題であるが、今後も条例に基づいて指導・勧告に努めたい。

教育行政

読書通帳事業の推進を



公明党 上野高志

問 本市の図書館で、今年の夏休みに小中学生を対象とした読書通帳事業を実施したとのこと。児童生徒が本に触れるきっかけとなり、読書の機会の拡大につながる素晴らしい企画であると思つた。この読書通帳事業の内容と活用状況、併せて利用者拡大に向けた改善点や今後の事業展開を伺う。

答 本市で実施した読書通帳事業は、通帳に読んだ本の書名と感想を記入することができるとして、夏休みの

児童生徒の読書推進のため、小学生低学年用・高学年用・中学生用の3種類を用意し、希望者に配布した。通帳が一杯になった特典として、図書館カウンター業務の体験、または、所有している書籍に透明なフィルムカバーをかける、のいずれかを選択できることとした。今回は、希望者が少なく事業実施の周知方法や時期について改善が必要であることから、一般の方や移動図書館の利用者を対象とする等の取り組みを検討したいと考えている。

医療行政

救急患者の受け入れ体制の現状は



陵志会 石崎公一

問 脳梗塞の救急患者が、東千葉メディカルセンターに受け入れがでなかったため、ドクターヘリで旭中央病院に搬送されたが、数日後に死亡したとのこと。また、九十九里町から高血圧を原因とする救急患者が、ウォークインで東千葉メディカルセンターに搬送されたが、同時に長生郡市から救急車搬送があり、2時間待たされた後、九十九里病院を紹介されたなどの話を聞いている。現在の救急患者の受け入れ体制は、どのようなになっているのか。

答 夜間及び休日の医師の体制は、基本的には救急科1名、他の診療科1名の2名体制となっており、受け入れの状況で時間帯によっては、バックアップとして救急科の医師1名を加えた3名体制としているとのこと。

現在は部分開院であり、限られた医療スタッフの中で最大限の対応をして、受け入れ可能な患者は受けているが、他の病院と同様に全ての患者を受け入れることができないというのが現状である。